

# しどろいん

発行  
厚木市青少年指導員  
連絡協議会  
編集 広報部会  
厚木市中町1-1-3  
TEL 225-2580

## 各部会からの報告

### 野外指導者養成講習会

体育部会部長 三橋正巳 取り組んだしるしです。今後の地区活動の糧になっていくと思います。

今年度の参加者はおよそ40人で、プログラムはバルーンアートの製作とイニシアティブゲームです。

### しどろいん

バルーンアートの講師はスマイルアースの小菅先生で、いくつかの班に分かれて実践形式で学びました。使用した風船は天然のゴムでできています。最終的には自然に帰るもので、色とりどりの風船を使います。蜂、花や犬を作り、各自で膨らませた風船を班の仲間とつなぎあわせ、大きな作品が出来るとなりました。地区を超えて各班から笑い声が弾ける時間となりました。



闘っても痛くない剣です

風船口ボコップも作れます

### 指導員交流研修事業を振り返って

文化部会部長 福岡典秋

5月30日(土)に七沢自然ふれあいセンターにて、指導員交流研修事業を行いました。文化部会は「裏から見るとサーキット研修」を担当、「日天さん月天さん」の第二景を台本に研修を行いました。まず、舞台作りから説明を行い、次に文化部会員による実演を行いました。ジュニアリーダーをはじめとする受講者にも、人形・声

## 少年少女フェスティバルの自慢話

平成27年5月17日アミューあつぎにて開催

### 牛乳パック工作

厚木北地区 二瓶要功

厚木北地区では、牛乳パックでブーメラン・コマ・ヨーヨーを作りました。

牛乳パックを35ミリの幅に輪切りにし、井桁に組み、裝飾を施してブーメランを作ります。幼児たちにとって牛乳パックへのハサミ使いは容易ではありません。5歳ぐらいの男児は、懸命に輪切りに挑戦していました。

何度か手助けしようと思いつつも、男児の真剣さに声をかけるのを控えました。

ハサミ使いに苦慮していた男児が、不格好ながらブーメランを完成させた時には、作業中の眼の輝き、仕上がったのうれしそうな満足な顔を見て、手助けしないでよかったと思えました。子どもの輝きに感動する一日でした。

### のぼるあゆこちゃん

南毛利地区 遠藤直美

「のぼるあゆこちゃん」です。来場してくれた方に、予め用意してある種類のあゆ

### ジュニアリーダー全体のレベルアップにがんばる

厚木市ジュニアリーダーズクラブ連絡協議会会長 牧田 弥空

本年度、厚木市ジュニアリーダーズクラブ連絡協議会会長になりました牧田弥空です。中学1年生の頃から先輩方を見て学んだことを活かして、厚木市のジュニアリーダーはすごいと思っただけではなく、みんなと協力して、がんばりたいと思います。

また、これまでに学んだことは少しでも多く後輩に伝えていき、厚木市のジュニアリーダーのレベルを上げて、みんなを引っ張っていけるようにがんばります。ジュニアリーダーの活動には大人の方の協力が必要です。青少年指導員の方から毎年多くの活動の依頼と支援をいただき、また、いつも温かく見守ってくださりありがとうございます。本年度も、ご迷惑をおかけすることもありますが、よろしくお願い致します。

### 「あつぎっ子」の笑顔に伝えたい

笑顔を伝えたい

団体育成部会部長 菅野昭男 私たちが地域で活動するときジュニアリーダーの存在は大きな支えになります。ジュニアリーダーが私たちと子どもたちの架け橋になってくれるからです。



皆さん、真剣に取り組みました

ジュニアリーダーが私たちが地域の要望や願いに応えるためには、それなりの資質を有することが必須の条件となります。青少年課や団体育成部会ではジュニアリーダーの養成のために様々な研修会を企画し実施しています。初めて会員になった人を対象に初級養成研修会、中堅として活動している人を対象に中級養成研修会、地区の会長や副会長を対象とした上級養成研修会などです。また、クリスマスを迎えたクリスマス研修会、指導者となる人のためのカウンセラー養成研修会があります。いろいろな研修会を受講することにより、一人一人が資質の向上と力量を高めて、私たちが地域の期待に応えられるジュニアリーダーとなっていくと思います。青少年指導員全体でジュニアリーダーを育成していくためにも、ぜひ研修会に参加し、活動の様子を肌身を通して感じてほしいと思っています。

### 全員集合



コロちゃんの塗り絵の中から好きなものを選び、色鉛筆で塗ってもらいます。次に、裏に短く切ったストローを2つ並べて貼り、凧糸を通して完成です。今年はこちらで工夫！凧糸に小さな鈴を通しました。凧糸を広げながら上下に引っ張ると、あゆこちゃんが登って行きませんが、その時に小さい鈴が可愛らしい音を奏でてくれました。小さな子どもたちが、その小さな手で凧糸を引っ張る時に、小さな鈴の音が聞こえ、なかなかほっこりした気持ちになりました。

### 関係団体の出し物

- クラフト (ボーイ・ガールスカウト)
- 缶バッチ (ジュニアリーダーズクラブ)

### 各地区の出し物

- 牛乳パック工作 (厚木北地区)
- 空気砲2015 (厚木南地区)
- 紙ブーメラン (依知北地区)
- まんげきょう (依知南地区)
- かざぐるま (睦合北地区)
- 竹ぶえ (睦合南・睦合西地区)
- 輪ゴム鉄砲 (荻野地区)
- ゴリゴリプロペラ (小鮎地区)
- プラトンボ (玉川地区)
- スーパー竹とんぼ (森の里地区)
- のぼるあゆこちゃん (南毛利地区)
- 平成の水てっぽう (相川地区)
- ジェット機 (緑ヶ丘地区)
- 紙工房 (南毛利南地区)

### 体験を通して青少年を育てよう

厚木市青少年指導員連絡協議会会長 勝木 陽一

「少年少女フェスティバル」は、例年厚木中央公園で開催しておりましたが、今年度はアミューあつぎで開催しました。大勢のみなさんに参加いただき、ありがとうございました。

近年、子どもたちに「自由な時間」「遊ぶ空間」「遊ぶ仲間」「大人の仲間」の四つの「間」が不足していると言われています。子どもたちは集団で遊ぶことが得意になっていきます。ゆえに子どもたちには、同じ目標に向かって汗を流す「体験の共有」が必要です。体験により、それが集団の中で役に立つこと

子どもたちは集団で遊ぶことが得意になっていきます。ゆえに子どもたちには、同じ目標に向かって汗を流す「体験の共有」が必要です。体験により、それが集団の中で役に立つこと

今年は何回の節目の夏の高校野球で、東海大相模が全国の頂点に立ち、とても感動したのは私一人ではないと思います。大人から子どもたちに伝える種々な事、それを更に次の世代へとつなげていきたいものです。小さな事からこつこつ、子どもたちの好奇心を膨らませて未来への希望の芽となりますように(小鮎S)

# 少年少女フェスティバルの自慢話

今年もまた来たよー！

荻野地区 花上真弓

荻野地区の出し物は割り箸と輪ゴムで作る輪ゴム鉄砲です。荻野地区のブーッは一番奥のトイレの隣で、開始直後はなかなか子どもたちが来てくれず、やきもきしました。子どもたちは初めての子どもたちばかりではなく、「去年やりたかったけど、時間が無くてできなかったの」、去年も作ったけど、楽しいからまた来たの」と言ってくれる子どももいました。小さな手でカッターナイフを扱うのに非常に苦労していた子どももいましたが、ジュニアリーダーの指導のもと、可愛い輪ゴム鉄砲が次々と完成しました。真剣なまなざしで試し撃ちの的を狙う姿がとてもほほえましかったです。

たくさんさんの笑顔に支えられ、今年も楽しく参加することができました。

子どもたちの笑顔は最高！

玉川地区 三橋正巳

プラトンボはプラスチックでできた竹トンボのことで、材料はプラスチックのファイバー、これをたんざく状に切り、羽根にします。この羽根の中央に竹串を刺し、竹串が抜けないように



うまく的に当たるかな

厚木南地区のものをづくりは、ペットボトルを使用した「空気砲」です。空気砲は、ペットボトルとト

少し固めのプラスチックの板を幼稚園児や低学年の子どもがハサミで切るのは若干危ない気がしますが、逆にこの年代の子どもたちが一番何でもやりたい時期なのでヘルプされるまではなるべく手を出さないようにしています。羽根が歪んでいようがそんなのはお構いなしで、羽根の折り曲げ方やバランスを上手く変えてあげればきれいに飛ばすことができるのがプラトンボの良いところ。プラトンボが飛んだ時の子どもたちの笑顔は最高！

厚木南地区 山口満

発泡スチロールを詰めて、的に向かって飛ばす遊びも考案しました。また、その発泡スチロールも飛ばしてから拾う必要がないよう、紐で結ぶなど少しずつ改良してきました。子どもたちは自分なりに趣向をこらした装飾をします。オリジナルな空気砲で遊ぶ姿はとて

笑顔が飛び出す水てっぽう

相川地区 石井和彦

相川地区は、恒例の「水てっぽう」を作りました。一つの水てっぽうを完成させるために必要な部品は7種類あり、役員が半日がかりでセッティングします。従来は、ほぼ完成品に近い状態で子どもたちに作ってもらっていましたが、今回は、会場がアミューあつぎとなり、来やすい場所と時間帯になったことにより工程を増

子どもたちの手は、小さく力もないので、竹を削る感覚を一緒に手を携えながら少しずつ教えていきます。子どもたちは意外に要領を掴むのが早く、すぐに自分で削れるようになりまして。うまく削れると笑顔を返してくれ、その笑顔にやりがいを感じます。

工作は楽しい

森の里地区 徳田勝彦

森の里地区では、ナイフを使う「スーパーパー竹とんぼ作り」を行いました。ナイフの扱い方を子どもたちにもうまく教えるのが青少年指導員の腕の見せ所です。

子どもたちの手は、小さく力もないので、竹を削る感覚を一

竹とんぼは、削った竹の中心部を熱してねじりを加えて完成です。不思議な形にねじれた竹とんぼを見て、高く舞い上がる姿を想像するのか、完成に安堵するのが、最後に再び笑顔を見



楽しみながら作っています

せくれる瞬間に、ちょっと難しいけれど竹とんぼ作りをやって良かったと思います。

青空の下でテイクオフ

緑ヶ丘地区 竹内隆志

緑ヶ丘地区は毎年子どもたちを楽しんでもらっているジェット機作りの指導をしました。ジュニアリーダーの親切丁寧なアドバイスのもと、ハサミで切る「のりで貼る」「マジックで色を塗る」の工程を子どもたちが一つずつこなしていくと、ジェット機の完成です。作っている子どもたちの顔はとても楽しそう、今年もやって良かったと思いました。

場所が室内のため遠くまで飛ばすことはできませんでしたが、「近くの公園で飛ばして遊んでね！」と約束したので、青空の下、思い切り飛ばしてくれていると思います。

楽しく

自分だけの紙ブーメラン

依知北地区 柏木勉

毎年恒例となった紙ブーメラン、今年は室内での開催となったため、思いっきりブーメランを飛ばせないと子どもたちが集まってくれないのではないかと心配していました。しかし、心配ははずれ、多くの子どもたちが来てくれて、厚手の紙に型をなぞり、ハサミで切りカラフルなマーカーやシールなどを塗り、どの子ども個性のある自分だけの紙ブーメランを楽しそうに作っていました。ある小さい子は、お父さんに「もういいじゃない？」と言われても「まだやる！」と頑張っていて、くきれいに仕上げていました。

子どもたちも、ものづくりの楽しさと大変さを感じた一日となり、私たち子どもたちの笑顔と一生懸命な姿を見

世界に一つの作品

南毛利南地区 久保勝寿

当地区の出し物は牛乳パックで作る小物入れと、まつぼっくりを使った紙コップけん玉、どちらとも簡単に作れるので幼稚園児から高学年の小学生まで楽しめること、簡単にオリジナルティあふれる作品ができることが自慢です。小物入れは選んだ色紙とその貼り方で、カラ



教えるほうも一生懸命です

自慢はジュニアリーダー

睦合北地区 飯島英治

今年、アミューあつぎで開催ということもあり、準備や慣れなことがあり、大変だったと思います。

しかしそんな中でもやはりジュニアリーダーの活躍が素晴らしいと思います。かざぐるま作りでは、最初は「モジモジ」していましたが終りの頃には、

イレットペーパーの芯を使ってピストルのように作ります。材料となるペットボトルや芯は、役員みんなで集めます。最近

ペットボトルの軽量化がすすんでいて、やわらかいペットボトルが多くなり、堅いペットボトルを集めるのにと苦勞しています。空気砲を作る楽しさもありますが、ここ数年は完成した空気砲で子どもたちが楽しく遊べる方法を考えています。

発泡スチロールを詰めて、的に向かって飛ばす遊びも考案しました。また、その発泡スチロールも飛ばしてから拾う必要がないよう、紐で結ぶなど少しずつ改良してきました。子どもたちは自分なりに趣向をこらした装飾をします。オリジナルな空気砲で遊ぶ姿はとて

相川地区は、恒例の「水てっぽう」を作りました。一つの水てっぽうを完成させるために必要な部品は7種類あり、役員が半日がかりでセッティングします。従来は、ほぼ完成品に近い状態で子どもたちに作ってもらっていましたが、今回は、会場がアミューあつぎとなり、来やすい場所と時間帯になったことにより工程を増

積極的に教えたり、なりわい節では、観客集めのために大声で走り回ったりしてくれました。いつも思うことですが、ジュニアリーダーは、みんな頑張り屋さんばかりで頭が下がります。今、自分の気持ちや意見を人に伝えることができる子どもたちがどのくらいいるのか？人生において、とても大切なことですね。

それがジュニアリーダーはほとんどできています。これからもそんなジュニアリーダーたちができるだけサポートしていきたいと思っています。

ハラハラ・ドキドキ

睦合西地区 栗原澄子

睦合南地区と睦合西地区では、竹ぶえ作りを行いました。竹ぶえ作りには固い竹をカッターナイフで削る作業があるので子どもたちの成長に応じて作り方を教えます。カッターナイフを使った事のある子どもたちでも手を切るのでは...と怪しい持ち方を見てハラハラ。また、キレイな大きな音が鳴るかドキドキです。

そんな姿を見ている保護者たちもハラハラしているのが伝わってきて最後に、「ピー」と鳴らすのを見るとひと安心です。更に、「ありがとう」と言われると嬉しいものです。普段物作りをする事もなく買

プロペラはなぜ回るの？

小鮎地区 安斉克己

ゴリゴリプロペラは、割り箸に針金をらせん状に巻きつけて凸凹を作り、割り箸の先に好きなプロペラ絵(女の子は花など、男の子はサッカーボール・星など)を、釘を使って取り付けます。針金を巻いた部分を竹の棒でこすると、不思議な事にプロペラはくるくると回り始めます。なぜ回るのかな、上手に回ったら大成功です。

割り箸をこすることによって出来る振動がプロペラに伝わり、やがて回転を始めます。振動のエネルギーがプロペラの回転エネルギーに変わったので

ったおもちゃが多い中、物を作る大切さや楽しさ、道具の使い方が学べるこの機会は、親子の絆を深める充実した一日になったと思います。



手を切らないようにね

余裕をもって

依知南地区 中港正

今年の少年少女フェスティバルは、余裕をもって取り組むことができました。その理由は三つ。

一つ目は経験。昨年は7人の指導員の内6人が新顔で右往左往。今年はメンバーが変わらず、子どもたちの年齢に合わせた対応ができるほど。

二つ目は環境。細かい材料を使う「万華鏡」は風が大敵。今年の会場は「アミューあつぎ」。室内なので風もなく、子どもたちの作業サポートに専念。三つ目は支援。今年もジュニアリーダーとそのOB、青少年指導員のOBが協力してくれました。お蔭で開会から閉会まで満席状態で、準備した「万華鏡」のセットが不足しそうな中でも、いつも笑顔で余裕をもって対応することができました。



あゆむ回